



KAMEDAJIMA

「はにかむエブリデイ」

亀田の郷の縞だより

令和4年

001

「はにかむ」=しよしがり(はずかしがり)な亀田の人々、「ハニカム」=自然界に存在する丈夫で美しい亀の甲羅の構造。
強く優しい亀田縞と、この地にくらす人々をイメージしています

亀田縞利用促進協議会

Person

元・江南区長／現・新潟空港ビルディング株式会社
小野 克幸さん



亀田縞の可能性に光を灯した、
かけがえのない先駆者

小野さんは、平成27年に江南区長に就任すると、亀田縞の可能性に着目して今につながる活動の道筋をつけてくれた人物だ。

「当時亀田縞はまだ小さなお土産品が多く、縞の魅力を伝えるには少し迫力不足の印象でした」。すぐに中営機業へ行って話を聞くと、シボを使った縞はめずらしいと、さっそく自費で浴衣を二枚こしらえた。その際「お洒落に作ってください。そして特別価格は困ります。私はこれを着て、素敵でしょう、いくらで作れますよと宣伝するのだから定価でないと意味がない」とリクエスト。区長がいきなり浴衣を着てかめだ祭りの会議に登場すると周りはたいへん驚き、それでは自分もと浴衣を作る人たちがいたとか。

二社の機屋では白前で何枚も服や着物を作り、実際に着て人に会って、反応を伺って、発展性を探り続けた。

そうして区長最後の年に「新潟市のこれからの伝統産業とし

てきつと大丈夫でしょう、と翌年の区の前算編成に亀田縞を組み込んで本庁へ戻りました」。戦略を模索していた亀田縞関係者たちは大いに勇気づけられた。

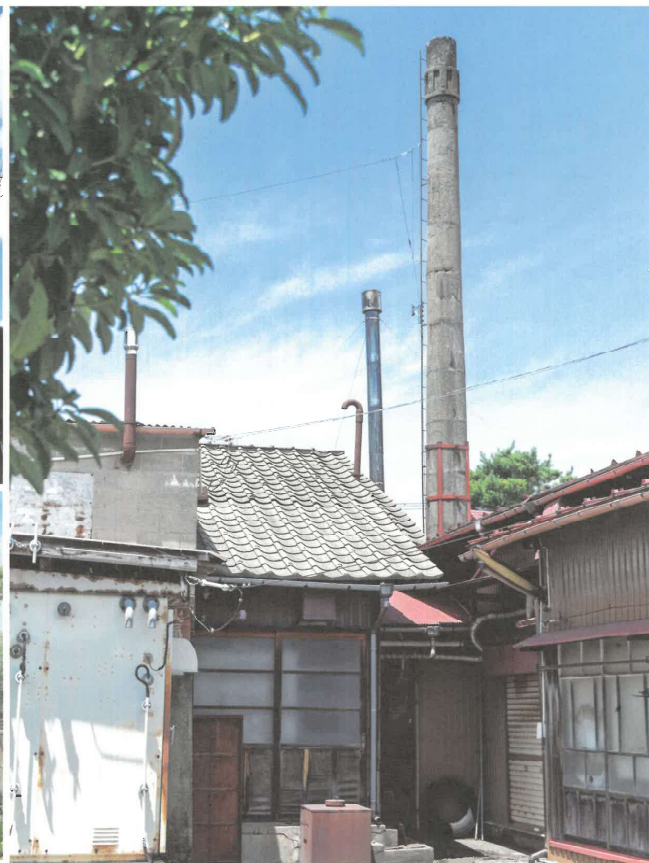
「江南区の人は優しくて物事をきちっと理解できてすごく人がいい。だから私はきつと他の区長さんと比べてはるかに楽をさせてもらったと思います。一緒に仕事ができ嬉しかったし、そういう人たちが官つ町がわるくなるはずがないですよ。江南区の発展なしに新潟市の発展はないから誇りをもって自信満々で進んでほしい」。

ますます亀田縞の将来に期待して、今は新潟空港にもっと親しんでもらう事を考えている。この日空港では「HAPPY そらフェスタ」を開催。亀田縞も招かれてワークショップを行う。さ、始まりますよ。小野さんはにっこり笑うと会場へ颯爽と向かっていった。



オーダーのセンスが光る。白い羽織には黄色の羽織紐を、ピンクのシャツには白襟を、白ジャケットは赤色の糸でアクセント。嫌味なくお洒落に着こなすから人も欲しくなる。「ただ楽しんで作っているだけです」。

亀田縞発祥の風景をたずねて 袋津小路でラビリンスしてみた



こんにちは。亀田縞の広報カメラ子といま
す。恥ずかしながら、まだナビなしには区内
を移動できない江南区初心者です。

ある日上司のひろし氏からおつかいを頼
まれました。曙町の亀田繊維工業協同組合
から目的地の袋津までは徒歩約10分。

「中営機業の前から斜めに入っていく道が袋
津に続くから。散歩がてら歩いていけば」。

袋津は亀田縞が生まれて産業として大き
く発展した地でありひろし氏の地元。当た
り前のように言いますが、案の定すぐに方
向を失いました。

車優先ではない徒歩サイズの小路が上り
下りうねり、似たような板塀や蔵が続ぎ、
今通った道にまた戻り：だんだん不安に
なってきました。だけど昭和をリアルに知る
世代のせいか、子供のころ田舎のおばあちゃ
ん家に遊びに行った時のような郷愁に包ま
れて、迷っているのになぜか心が落ち着くよ
うな不思議な感覚。人が静かに生活する場
所にやってくる勝手に楽しむのはよくないと
思うけど、国道からひよいと迷い込んだら広
がっているジブリっぽさというか三丁目の夕
日感というか。他では味わえない新鮮なタイ
ムスリップです。

住宅街の公園にて巻
貝のすべり台の上に立
ち帰るべき方向を探
す。これ「ホームレ
ス中学生」に出て
くるのと同タイプ？



無造作に置かれ
た水汲みポンプ。
初めて見てめず
らしかったので地元の人に話すと「他の場所
には動いているものもあるよ」とあっさり返された。



はにかむ 機屋だより

はたや

中営機業(有)

大相撲のファンなのでたまに国技館へ、
どこでも日帰りで行っちゃうの

JRのおトクな切符を上手に利用してたまに東京方面
へ行きます。上皇ご夫妻が参加された一般参賀に伺っ
たときは感動しました。仕事半分だったけど小田原まで
足を伸ばしたことも。お相撲が大好きで国技館で大相
撲観戦は楽しかった。また行きたいわ。地元の方士豊山
に亀田縞で大きいサイズのパンツを作って持参したの
よ。付き人さんには渡せたけどちゃんと愛用してくれて
るとよいなあ。



中林 恵利子 さん

今月のイチ押し!

扇子(ケース付き)



夏のお出かけには扇子をバッグに入
れて。暑さにダウンしそうだけど、こんな
薄地の亀田縞を取り出して風を送れば
クール。洋服でも着物でも装いのアク
セントになります。

中営機業(有) 新潟市江南区曙町1-8-18 | TEL.025-381-5163

大正12年創業。総編で織り進めるため丈の長い浴衣や着物なども得意。亀田縞の素朴で優しい風合いを
生かし、綿、ちぢみ、綿麻、ガーゼなどバリエーション豊富。

亀田縞の2軒の機屋のご主人へよもやまインタビュー。
個性豊かな編柄を生み出す2人の人柄にふれてみよう、というコーナーです。

今月の
テーマ

楽しみなイベント

立川織物

総勢11名、家族そろってにぎやかに
お庭バーベキューが楽しみです

昔はよく夫婦で出かけたけど、友人夫婦たちもみな
揃って介護が始まると、本当に出かけなくなりましたね。
でも息子や娘一家が集まってしょっちゅう庭でバーベ
キューしますかね。道具も食材も全部揃えて持ってきてく
れるから私は飲む専門、妻はおにぎりを作ったり裏方
のお手伝い。肉、エビ、ウインナーなどお酒のつまみにも
びったり。総勢11名ともなると賑やかですよ。



立川 治秀さん

今月のイチ押し!

腕カパー



袖先を汚さない腕カパーは、庭仕事
や炊事に役立つ便利グッズ。夏のバー
ベキューに活用すれば、火や油が跳ねて
もあちち…になりません。脱ぎ着しやす
いショートタイプ。

立川織物 新潟市江南区袋津3丁目1-52 | TEL.025-381-3067

迷路のまち、袋津の一角にある明治17年創業の機屋。横編で織り進めるのが特徴で、通常の亀田縞より
粗野感のある太めの糸で織りあげる。スベック染を行う。

現・旧並んで建つ袋津郵便局が見えてきました。きちんと手が掛かっている美しい木造建築をしばし眺める。かつて亀田編の物流と金融を一気に担ってきた場所だけに、活発に人が行き交ったことでしょう。

さらに奥に進むと、ひとときわ日立つ70年以上前の染色工場の大きな煙突や、かつて機屋だった建物が残るエリア。昭和40年代にはまだ機屋や繊維関連業者が約50社、約1000人が働いていたに辺りには機織機の音が響いていたのだとか。

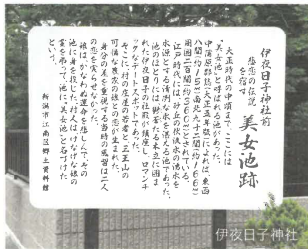
むかし機屋で働く女性たちは憧れの存在で、彼女たちに会うため周辺から若い男性が集まって賑やかだったとか。袋津の鎮守様伊夜日子(いやひこ)神社の入口にはそんな時代の悲恋を伝える看板も。7月14日と15日はここを舞台に勇壮な燈籠押ししの神事が行われるそうです。



袋津郵便局



伊夜日子神社



伊夜日子神社



袋津保育園



▲方向を見失い途方に暮れていると、親切なJC3人組のおかげで小路を抜けることができました。どうもありがとうございます。

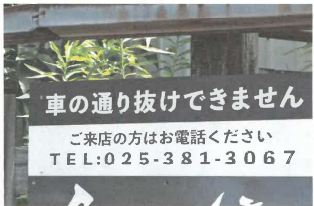
▲亀田地区コミュニティセンターには袋津歩きに欠かせないマップが設置されている。関心があれば入手を。

さて、子どもたちのにぎやかな声に誘われて迷い出た先には袋津保育園。機屋などでは多くの女性の働き手が必要だったため子どもを預けて安心して働ける保育園は地域にとって大切な場所でした。今に続く変わらぬ風景です。ここまで迷いに迷っていたというのに、お迎えの車が帰る方向へついて行くと、見覚えのある場所に行き着くことができました。

袋津で見つけた、暮らして密接だった時代の景色。少し前の時代に思いを馳せて亀田編がもつと身近になりました。

カメラ子の袋津小路探検記

実は2年くらい前、いくらなんでもナビの案内があればどこでも行けるっしょと、気軽に車で立川織物へ出掛けて大変なことになった苦い経験があります。車一台やと通れる道をノロノロうろうろ、目的地近くに来たところで急にナビ終了。見えているのにたどり着けないもどかしさよ。ここぞという超絶細道を見つけてあと3m、この電信柱を通過して角を曲がれば到着の地点で、柱と壁の間に車がすっぽり挟まってハンドルを切るうちにわかんなくなり、前にも後ろにも動けなくなりました。無理に突っ込んだ末の失敗です。呆然としてたら近所のおばあちゃんができて慣れた感じで正しい道を教えてくれたけど、へしゃ曲がりぶら下がったバックミラーのまま立ち去るのはたいへん恥ずかしかったです。



ほんのあと数センチ、この電信柱さえなければ通れるのに。小路入口の看板には車は通行できないときちんと書いてあります。回りましょう。

NEWS & INFO

新商品やイベントのお知らせ、プレゼントなど地域の情報を随時募集中！
内容の問合せはすべて亀田編利用促進協議会広報部へ。

長岡市で初のポップアップショップ 花火や里帰りに亀田編に触れてみて

ヤマシタ長岡店(長岡市台町2-4-56E・PLAZA3F)で亀田編ポップアップコーナーを開催【~9/25(日)】。多くの方が長岡を訪れる時期に地元綿に触れてもらおうと企画。常設する同亀田店でも人気のワンピース等を展示。中越で亀田編に触れる機会にぜひ。



歴史を守ってよりよい生活環境を 全国町歩きゼミが袋津にやってきた

郷土の街並み保存や環境づくりをめざし各地の団体が持ち回りで開催する「全国町歩きゼミ」。今年も新潟市で行われオプションバスツアーの参加者が袋津を訪れた。街歩きガイドの話を聞きながら約1時間、途中立川織物を工場見学し主人の話に熱心に耳を傾けていた。



今年もたくさん咲きますように 恒例の綿の種まきを行いました

亀田編応援隊、青山登さんのライフワーク、和綿の種まきが今年も行われた。早通小学校近くの畑は、まもなくかわいい花をつけ、秋にはふわふわの綿の実をみることが出来る。亀田中学校の方は昨年の畑じまい時に校庭の桜の葉を肥料にして3年がかりのオーガニックコットン栽培に挑戦中。種まきや収穫は恒例イベントだけど草取りや水やりなど連年のお世話では青山さんが1人でやっている。インド産のアジア綿を植えていて、これは昔の亀田編と同じなのだとか。亀田編応援隊はいつでも隊員を募集中、興味のある人はぜひ仲間になってほしい。



お出かけがてらにのんびりと ギャラリーでの亀田編の常設

ギャラリー望宝(みたか)(北蒲原郡聖電町網代浜)では亀田編の常設展示がスタート。これまで期間限定の展示をおこなっていたが、いつでも立川織物の亀田編製品を見たいという要望に応えての常設開催になった。お出かけ気分でのんびり足をのびして作品に触れたい。



恒例のギャラリーイベント 亀田編がずらり勢ぞろい

秋のギャラリーでの展示販売情報です。9/3(土)~25(日)の土日祝のみ、緑と花の古民家風ギャラリー木り香(阿賀野市畑江)にて。9/13(火)~18(日)小さな美術館季(江南区松山)。どちらも中営機業を中心に年齢やデザインがとなる3社合同展。



先覚に訊く。

亀田郷と同じく、永くこの地で活躍されている
会社やお店の諸先輩を知るコーナーです。

亀田郷の歴史に寄り添うお寺

親鸞聖人の七不思議と縁のあるこちらのお寺は、数百年前に平島で建立したのち、永禄9年(1566年)酒屋村に移住。亀田郷と共に歩んで来られました。

芦沼の歴史と共に歩きました

移住してきたのは460年前、まだ上杉謙信と武田信玄が戦っていた時代といえれば想像しやすいかな。昔は野つ原で芦沼でしたから、一面湖になりますと門徒さんたちが舟で渡って寺に来ていました。和田という場所はぐーっと堤防が曲がっている地形でいつも破れてしまう。それは村が一つなくなってしまうほど過酷で、この辺はずっと水との闘いの連続でした。

亀田郷ならではの想いがあります

亀田郷という沼地にもすごい苦労しながら根付いたのが真宗の最もいい面、素晴らしいところですね。泥水に一日中腰までつかりながら農作業するでしょう。野良着の縫い目から入った蛭に足の血を吸われるし、今ではトラクターで行う仕事も昔はぜんぶ人の力。二回日は荒く打ち、鎌を替えて二回日打つて…とやるのだから、とにかくたいへんな苦しさですよ。米ができて半分は地主へ。年貢もある。貧しさと厳しい沼地の生活を生きてきた歴史があります。



八木 孝英さん

真宗大谷派敬覚寺 住職
社会福祉法人同朋福祉協会理事長
URL <http://www.kyokakuji.jp/>

亀田郷の輪袈裟を着ておられます

輪袈裟は一般的に法衣店で求めた絹を使うのですが、地元の綿がよからうと、門徒さんにお願ひして作ってもらいました。亀田郷は丈夫で汗をかくても洗えるから良いねえ。綿もよいでしょう。普段はお通夜や月参りなどにも使っています。一度に30本位作って親戚に配るからこれをしていけば大体うちの親戚寺です。

今と昔でお寺の役割は変化しましたか？

お寺と農民がグループになって沼地に住み着いて生きていくのだから昔は精神的な支えであり、お寺の行事が皆の娯楽でもありました。今も昔も願ひは地域と共にあること。現代では様子が変わりましたが、毎月お経を読む会をしているほかに本堂で朝ヨガなども。次は太極拳をやってみようですね。スローな動きが私には合いそうかな。

プライベート一問一答

Q1 最近見た映画は？
「峠」。楽しみでさっそく一人で観てきました。

Q2 好きな食べ物は？
最近ちょっと味噌汁が好きになりました。何でもよいが味噌を3種混合して自分で作ります。山の物、海の物の、里の物をバランスよく、それが一番。

Q3 区外へ持って出るお土産は？
野梨の洋ナシを贈ります。



お気に入りの亀田縞 特別編

亀田繊維工業協同組合のホームページでみなさんの亀田縞の作品を募集中。洋服、アクセサリーやバッグなど。デザイナー、作家さんの作品から、街で買った、自分で作った、お気に入りの亀田縞を教えてください。昔の物でも今の物でもOK。ご応募お待ちしております！

投稿はこちら ▶ <https://kamedajima.net/showcase>

亀田縞で作った「ボディバッグ」

北海道在住高橋幸也さん(64歳)の「ボディバッグ」。奥さんに教えてもらいながら見よう見まねで自分で縫ったのだとか。ベルトやキーチェーン、反射光などこだわり満載で、布は実家の土蔵にあった亀田縞と袴を使いました。このバッグに飲料を入れて日ハムの野球観戦に行くのが楽しみなんだそう。楽しそう。

ご実家は諏訪神社に隣接する元機屋タカコウさん。高橋さんが小さかった頃は機の機械がいっぱいあったのを記憶していて、元々は染屋だったのかな。とも。土蔵にはまだ亀田縞が眠っていて、それらの特徴はやっぱり丈夫なんだそう。帰郷時には亀田縞の布を買って帰り、奥様にジャケットを作ってもらっているとか。貴重なお話ありがとうございます。



▲タカコウさんの貴重な亀田縞を見せてもらいました。50年以上前のものなのに、どれもモダンで色合いがとっても素敵です。

はにかむ for the future 活動日記

「地域の宝を自分たちで発見しよう」 評議会メンバーが中学校で出前講座を行いました

亀田中学校一年生の総合学習に、当評議会メンバーが3回にわたり講師として登壇。郷土の魅力を発見しようというテーマの元、初回の講師は江南区役所産業振興課塚本氏。地域の宝はなに気ないふだんの生活の風景にひっそり隠れているよというヒントと共に、地域を誇りに想う大切さをお話ししました。3回目は亀田繊維工業協同組合立川氏による亀田縞の歴史と復活の道のりや取り組みをお伝えしました。2回目講師の青山さんも含めて、3人そろって亀中の出身者です。お手伝いできたかな。二年生は自分たちで袋津の町を歩いて地域を見つめ、自分たちの視点からのマップを作るなど、より具体的な課題に取り組んでいます。



▶ 野球で県大会優勝し町を凱旋パレードした亀中時代の思い出を交えたトークになりました。



江戸時代後期、当時日本最北の本綿栽培地だった新潟県の亀田郷で、腰まで泥につかる過酷な米作りを支えるため、丈夫で汚れに強く、しかも美しい縞柄の綿織物「亀田縞」が誕生しました。大正期にかけて全盛期を迎えた亀田縞は、時代の変遷で一度は途絶えましたが、消滅から半世紀を経て、現在も残る2軒の機屋により復活しました。従来の素朴であたたかい風合いと丈夫さに加え、特色である独特の肌ざわりよさ、現代生活になじむしなやかさを兼ね備えた布として注目されています。



提供：亀田郷土地改良区／撮影 本間喜八氏

はにかむ 編集後記

先日、リニューアルされたアビタパワー新潟亀田店に買物に行ったら、驚きの光景が…。なんと食料品売り場に亀田縞のストライプを使ったタペストリーや掲示物が溢れているではありませんか。う～ん、これはすごい！綿織物という生地としての活用はもちろん、最近では亀田縞のストライプが手提げ袋や手帳などにも使われ、様々な場面での利用が進んでいます。お店づくりに地域の宝物でもある亀田縞を活用いただいたアビタパワー新潟亀田店様、誠にありがとうございます。この紹介は次号にて。

亀田の郷の縞だより はにかむエブリデイ001

- 発行：亀田縞利用促進協議会／亀田繊維工業協同組合
〒950-0134 新潟市江南区曙町3-6-1 TEL.025-381-4105 公式サイト <http://kamedajima.net/>
- 初版発行：2022年8月10日 ■企画編集：バクチープラス 佐藤洋子 酒井祐介 石井達
- 協力：江南区郷土資料館／伊藤藤一

Blogも更新中!

亀田縞通信はにかむエブリデイ

<https://kamedajimashimashima.jimdofree.com>

情報、投稿
ご意見はこちら



@kamedajima_kamedajima



Facebook | 亀田縞_kamedajima

